



歌のお兄さん お姉さんと一緒に ファミリーコンサート

7月7日 ゆめあるて



第 702 号
発行人●豊丘村公民館
館長 原 国人
編集人●長野県下伊那郡
豊丘村公民館報
編集委員会
0265-35-9066
印刷所●龍共印刷株式会社

私たちの村
(8月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,329人
女 3,359人
総人口数 6,688人
世帯数 2,151戸

成人講座運営委員
筏 市澤和宏

「地震大国日本」、環境変化の激しいここ数年は「災害大国日本」と言われ、必ず頭のどこかには「そんなんだ！」と誰しもが納得できるフレーズとして刷り込まれているこの言葉。また「地震・雷・火事・親父！」の様に怖いもの、あるいは自然の脅威を教え継いで来ている日本人の素晴らしい

知恵と文化。（現代は親父は怖いものか私は解らないが……）これらを、現代を生きる我々は実感として本当に理解しているのだろうか？と感じました。

確かに毎日のようにニュースやマスコミにより天災・人災・事故の報道を耳にしています。しかし幸いな事に我が豊丘村・飯田下伊那地域では大きな事柄が少なくとも感じます。逆にこの事が、災害に対する備え、

本年度の時事問題セミナー「持続可能なコミュニティ」の最後の講師にお迎えした横山先生は、二〇一四年の白馬村での長野県北部地震を消防団長として経験され、災害救助・復旧に努められた方でした。実体験からのお話しをお聞きすることに防災・減災意識を聴講いただいた皆さま

なコミュニティから、移住者が多い地区などのコミュニティは希薄になりがち、村内で地域格差が出ていたのと等、気づきや新認識を学ぶ事が出来た



時事問題セミナー
災害に備え現状の認識を
防災とコミュニティ
講師 元白馬村消防団長 横山義彦氏
7月10日

んに考え直していた良き機会になった事と思います。現在自分の置かれている環境を防災マップ等で認識しておく事の大切さ、公助（公の機関の災害時の助け）は有事では無いものと思え、また当セミナーのテーマ「持続可能なコミュニティ」から、移住者が多い地区などのコミュニティは希薄になりがち、村内で地域格差が出ていたのと等、気づきや新認識を学ぶ事が出来た

がどんな考えで立候補したのか、村政どうして行こうと思っておられるのか、正直よくわからない。

まさか数合わせで手を挙げた訳ではないでしょう。こういった選挙の中で定数も本当に十四で良かったのでしょうか。

村民として やっぱ何か引っかけあります。

（吉田 裕）

我が豊丘村議会議員の選挙は無投票で欠員にならず無事十四議席が決まりました。やっぱり何か引っかけがあるのは、十四人の候補者全員のポスターさえ貼られていないからどんな候補者なのか知らない人がいる。誰がどんな考えで立候補したのか、村政どうして行こうと思っておられるのか、正直よくわからない。

まさか数合わせで手を挙げた訳ではないでしょう。こういった選挙の中で定数も本当に十四で良かったのでしょうか。

村民として やっぱ何か引っかけあります。

（吉田 裕）

会場を魅了する歌声

子どもたちと楽しんでコンサート
山田 中田美香

子どもたちも楽しみにしていたファミリーコンサートに参加させていただきました。会場に着くと大勢の親子、家族で賑わっている中コンサートが始まりました。

明るく綺麗な歌声のあやお姉さんと、元気な体操の

お兄さん・のぶりんが子どもたちもよく知っている歌をたくさん歌ってくれました。聴いているだけでなく、親子一緒に歌いながら手遊びや体を動かすふれあい遊びをしてください。最後まで充実した内容だったと思います。ゲストでダンスを披露してくださった支援センターの先生方の姿を見て、子どもたちも嬉しそうに手を振っていました。

中でも子どもたちが特に盛り上がりつつあったのは新聞紙を使う遊びです。新聞紙を好きな形に破ったり、丸めて投げたり、大はしゃぎの子どもたちの様子が私も嬉しくなりました。

いつも親子と一緒に楽しめる催しを近場で企画してくださり嬉しく思います。楽しい時間をありがとうございました。

いよいよコンサートが始まり、お兄さんお姉さんが歌いながら登場すると、子供達も手をたたきながらリズムに乗ったり、テレビで聞いたことがある曲や、保育園で歌った事がある曲が流れると



平成二十三年度から始まった親子セミナーは、運動遊び、行事食づくり、パン作りなど親子での触れ合いの時間を事業を展開してきた。その中の一つが、今回のファミリーコンサートである。当日は、村内外から三百余人の方が来られ、小嶋信之さんこと「のぶりん」、岡野綾さんこと「あやおねえさん」が楽しい時間を演出してくれた。

七月七日、ゆめあるてで開催されたファミリーコンサートinとよおかに、息子三人と一緒に観覧に行きました。

ちょうど七夕の日という事で、入口に七夕飾りがあり、短冊も自由に書けるので、子供達は嬉しそうに願い事を書いていました。

一緒に歌ったりしてノリノリでした。また、手遊びや体を使った遊び、新聞紙を使った遊びを親子で楽しみました。

昨年続き、二回目の観覧でしたが、親子で楽しく素敵な時間を過ごすことが出来ました。

もしまたこのような機会があれば、これからも参加し、音楽の楽しさを子供達に伝えていきたいです。

ファミリーコンサート
inとよおか
笹久保 大倉 愛

一緒に歌ったりしてノリノリでした。また、手遊びや体を使った遊び、新聞紙を使った遊びを親子で楽しみました。

昨年続き、二回目の観覧でしたが、親子で楽しく素敵な時間を過ごすことが出来ました。

夏本番、毎日猛暑日で熱中症のニュースがマスコミにあふれている。皆さんくれぐれも気をつけましょう。

参議院選挙も終わり、初議会がありました。身障者の方や女性にも平等に国政に参加できるようにする事は、開かれた国政、多くの民意を国政に反映させる為にも非常に大切なことでしょう。

与野党共にそういった候補者を擁立してましたね。でも何かひっかかるのは、元格闘家の方やタレントさんに実際どれだけの仕事ができるのでしょうか？ 今までのような活動をしていったと聞いた気がしないので、やっぱり何か引っかけあります。

段丘

第二分館遊休日スポーツ大会

第二分館体育部 富内千尋

第二分館では七月十四日に遊休日スポーツ大会を開催いたしました。昨年のような猛暑を心配していましたが、今年は前日から降り続く雨の影響で、野外競技のソフトボール・マレットゴルフの二種目は中止となり、ソフトバレー一種目で各自治会とのスポーツ交流活動を行いました。今回参加して下さったチームは二チームだけでしたが、この試合に勝てば優勝という事で、両チーム共に熱い戦いをしていたが、優勝が城準優勝が北村となりました。試合が一試合しか無く、時

間も早く終わってしまったので、表彰式の後にはコートを開放して時間の許す限りフリー対戦として、応援に来ていた方が入ったり、公民館メンバーも入ったりして、楽しみながらしつかり体を動かして、無事に大会を終える事が出来ました。反省会や慰労会では、近年は猛暑や三連休中の開催からなのか参加人数が減ってきており、自治会の皆様が少数でも参加出来る種目や、合同チームでの参加の検討、また雨天中止ではなく、体育館を利用して、卓球やふらばるバレーの様

来ないか等の貴重な意見が出されました。最後に雨天中止でプレーが出来なかった方々もおられました。各種目に参加していただいた皆様に感謝し、お礼申し上げます。



蛇川下流域三六災害体験談(5) 林では家が流され、蛇川は砂で埋まった

聞き手 原 章 (古畑)

☆対岸の南小や林里はどんな様子でしたか？☆

（詳しくは分からないが、上村より林の方がひどかった。今の南小学校の給食室あたりの家が蛇川に流された。蛇川の水が来て根こそぎ倒れ込んで流れ込むのを見た。『ああ！』という感じだった。それでそのまま流れていった。そのため、その家は災害後にほかの場所へ引っ越した）

☆しばらくして流れが収まったとき、土砂や石や流木はどんなふうになたまっていましたか？☆

「たくさん物がたまっていたので、堤防から簡単に入ることが出来た。堤防から



三六災の時、この辺りで家が流された

三〇〇五〇センチメートルくらい下がったところが川底で、そこが全部砂だった。奥の山の方が崩れて流れてきた砂で、川に入ると足が埋まってしまう感じがした。きれいな砂だった。『こ

(続く)

公民館登録グループ活動紹介 第19回

豊丘母ちゃんズ

壬生沢北 荒木真司

私が豊丘村に居住したのは、九年前。誰も知らず家族三人で少し不安を抱えながら、暮らし始めました。少し生活に慣れて来た頃、近所に住んでいるイタールの人が「親子で楽しくいられる場所があるよ」と教えてくれて、早速行ってみました。色々な年代の、お母さんと子供達。とても楽し

そうに遊んでいて、息子も私も、すぐに仲良くなりました。こんな場所を私も作りたいなあと、思い、一年くらい経った頃、仲良くしていたお母さん達に協力してもらい、活動を始めました。月一度親子で好きな楽器を持ち寄りセッションタイム。最初は音楽というより、大さわざ：何回か回数



を重ねていくと不思議とステキなメロディーになるんですね。何より子供はキラキラ楽しそうでした。絵の具で「お絵描き」も、好きな色、形、模様：完成した時は感動したのを今でも覚えています。

大きなイベントは、年一回母の日に開催する「ひだまりマーケット」。沢山のフリーマー

けて、手作り品ライブ、パフォーマンスと、お陰様で年々盛り上がりついています。これからも、アートを通

シリーズ「元氣な高齢者」⑤⑧

恩師の教えを忘れずに 世に恩返し的心意

福澤幸雄さん

八十九歳

北入在住



昭和五年に、現在地で九人きょうだい（男六人、女三人）の総領として生まれました。父親は今でいう土地家屋調査士（宅地等を測量し分筆する仕事）であり、特に終戦時の土地解放時には多忙であったが、五十歳の若さで亡くなった。

昭和五年に、現在地で九人きょうだい（男六人、女三人）の総領として生まれました。父親は今でいう土地家屋調査士（宅地等を測量し分筆する仕事）であり、特に終戦時の土地解放時には多忙であったが、五十歳の若さで亡くなった。

昭和三十一に喬木村生まれで二歳下のミヤ子さん結婚した。以来ミヤさんが、今日まで献身的に支えてきてくれていることを、口には出さないが感謝している。公務として、村会議員を二期、区会議員を五期、お寺様の総代を四期と長年勤める等、地域の発展に寄与した。また富士市中学校の勤労体験学習の礎を築き十三年間受け入れを続けた。

きょうだい九人の内、六人が健在で東京、千葉、埼玉等遠方に住み、みな高齢のため、以前は毎年開催していたきょうだい会が最近途絶えており寂しい思いだ。現在、夫婦および長男との三人暮らしであるが、小学校入学時に先生から言われた「正直に生きること」および栗澤先生の「人としての生き方」の教えと合わせ、またまた世の中に恩返しする気持ちである。

文責 桐崎 長一

こちら資料館 197

豊丘中2学年職場体験学習

先月、豊丘中学二年生の男子二名が資料館で職場体験学習を行った。受け入れに当たって、どんな活動をしてもらえばよいか悩んだが、何か心に残る活動をとの思いからゆめあるてのウインドー内展示をやってもらったことになった。

しかし、一日だけの短時間の中で、企画から展示、キャプション付けまでこなすのはとても無理である。そこ

で、テーマを「資料館所蔵片桐白登作品展」と決め、あらかじめ選んでおいた白登作品を彼らの考えたレイアウトに沿って展示してもらったことになった。

といっても、白登について何の知識もない二人である。まずはDVDで白登の生い立ちから南画界の重鎮として活躍した晩年までをしつかり勉強し、それから作業に取り掛かることにした。

写真は、展示が完成し、満足な表情の二人である。ご覧になった方も多いと思うが、中々センスの良さを感じさせる展示である。

この体験が彼らのこれから長い人生の中で一ミリでも役立つことがあったら幸甚である。

(資料館主任 唐澤武彦)



四、五、七分館 夏祭り!

第五分館 納涼祭

第五分館主事 林 達也

第五分館では、七月二十七日(土)に納涼祭を開催



夏の夜祭り

第四分館社会部 小澤美幸

今年の夏の夜祭りは、昨年同様台風で一日延期となりました(七月二十八日)が、当日は良い天気、むしろ暑いぐらいの一日でした。

今年は長引く梅雨に悩まされ、七月十四日(日)に開催した夏季スポーツ大会も雨天により内容を変更しての実施だったので、数日前からの夏を感じさせる暑

のナイアガラ花火で終演。今年の夏の夜祭りも大盛況で終われたと思います。協力、協賛していただいた団体、会社の皆様には大変ありがとうございました。とうござい

子供達向けのゲームから始まり、オープニングのとおかウインドアンサンブルさんによる演奏から夜の部のスタートとなりました。各団体の皆さんの芸能、生ビールの配布、商工会の皆さんの出店による焼鳥、フランクフルト他、大抽選会、宝投げなど大いに盛り上がりました。伴野区役員の皆さんによる

しました。今年のは長引く梅雨に悩まされ、七月十四日(日)に開催した夏季スポーツ大会も雨天により内容を変更しての実施だったので、数日前からの夏を感じさせる暑

「雨天決行と開催チラシに書いてあったよね?」と思わず分館長が心配してしまっただけで、開催時には低調だった人出も、時間を追う毎に徐々に増えていき、開場から一時間を経過した開会あいさつの時点では、ますますの状況となつて参りました。昨年より納涼祭のお食事提供には、地域おこし協力隊として堀越の胡芝地区にバーベキューベースを開かれていた前田隆幸さんをお願いをし、公民館役員も一緒に焼きながら本格的なバーベキュー料理を提供させていたれております。そのおいしさは折り紙つきで、

さには納涼祭の盛会を期待したのですが、まさかの台風到来(実は二年連続、他の分館では日程変更もされる中、堀越はありがたいことに区民会館内の大広間等を活用する事が出来るため決行をした次第でした。

その後、堀越区民が大好きなビンゴゲームで盛り上がったのち、今年から始めさせていただいた抽選会では、当選者の方が次の当選者を引いてあげるといった方法を採用したところ、親子で、ご夫婦で、ご家族で、お友達で引当ててあげるな

食券は飛ぶように売れて皆さんビールと共においしくうに食べられているのが印象的でした。屋外開催時には地元の堀越神輿会の皆さんが神輿披露をしていただけの予定でしたが、あいにくの天気のため、子供神輿の皆さんのみ担いでいただき、元気に披露してくれました。



第七分館 納涼祭

第七分館社会部 木下兼明

第七分館の納涼祭は、壬生沢福島集落拠点施設で七月二十七日に行われました。台風の接近であいにくの天候になりましたが、開始時間の六時三十分ごろになると各自治会の皆さんがまとまって集まりはじめ、また他地区へ出られた皆さんも参加していただき、あつという間に会場がいっぱいになりました。

食券は飛ぶように売れて皆さんビールと共においしくうに食べられているのが印象的でした。屋外開催時には地元の堀越神輿会の皆さんが神輿披露をしていただけの予定でしたが、あいにくの天気のため、子供神輿の皆さんのみ担いでいただき、元気に披露してくれました。

ど楽しいハブニングもあり、大いに盛り上がりました。最後に恒例の宝投げについても室内で行うというあらわさも見事に成し遂げ、終わって見れば八十名程の皆様に参加いただき、盛況の内に幕を閉じた納涼祭でした。

役員の皆さんが焼く焼きイカ、五平餅、焼き鳥等のおいしそうなにおいが会場いっぱいに広がりました。また、飲み物コーナー、ビンゴゲーム、金魚すくい、花火と盛りだくさんのアトラクションがありました。ビンゴゲームでは百四十名の

皆さんが参加され、早くに当たる人、なかなか当たらない人とさまざまでしたが、その時は子どもさんから高齢者まで真剣にカードを見つめていました。今年の運試しです。商品もたくさん用意され皆さん嬉しそうに受け取っていました。

公民館は地域の皆さんの憩いの場でもあり、また、まとまりの場でもあると思います。

吉田河原の堤防の真ん中頃と思われるところに二個の火の玉が前後して現れる。提灯の火のような感じで、それより何倍か明るくて光芒はない。五、十間くらいの間隔でしようか、それが人の持ち歩くごとく静かに川上へ川上へと同速度で移動しはじめる。速度は人の

山間地域に生活する私たちがお互いに思いやり、助け合い話し合い、兄弟のように手をとりあつて、地域の活性化と発展のため、今後に進んでいきたいいなと思っています。

また、ある時は夕飯後、風呂の管理に出た祖母の知らせで家の西の石垣鼻へ出て見たことも、水車小屋通いの母のお伴で見たこともあり

河野区の人々との思い出を話しかけることがありますが、火の玉の始点、終点、彷徨する高さ、放線等、若干違う人もおります。筏から中芝までの延長で対岸を見る角度と高度で当然異なると思います。

また、ある時は夕飯後、風呂の管理に出た祖母の知らせで家の西の石垣鼻へ出て見たことも、水車小屋通いの母のお伴で見たこともあり



(豊丘村民話集・第壹輯 (昭和五十二年)より)

文責 壬生雅穂



～シリーズ～ 豊丘の自然

No.188

ヒメクロサナエ
（サナエトンボ科）



心打たれた言動を三つ
ヒメクロサナエは写真の
み。
①身近に豊かな自然があ
るにもかかわらず、子
どもたちの自然観察が
イベントとして行われ
るのは寂しい（下條の
石毛さん）。
②セミは地上に出てから
一週間程度しか生きら
れないというのは俗説
で、実は一カ月くらい生
きている。八百六十三

写真提供、大田秀子氏

平成二十五年度より豊
丘村教育委員会を中心に実
施されている通学合宿のお
手伝いをさせて頂き、今年
度で七年目の夏を迎えまし
た。毎年、六月初旬に始ま
り、夏休みを挟み八月下旬
か九月初旬まで、週替わり
で元気のいい声が慈恵園の
交流広場や体育館、園庭の
公園に飛び交います。豊丘
村の南北小学校の四年生が
全員対象で参加します。

この通学合宿の目的は
「子どもの生活リズムの確
立（早寝早起き朝ご飯）と
ともに、思春期に向かう子
ども達の自己確立に必要な
「相手意識（遠慮と我慢）」
を、親元を離れた三泊四日
の集団生活の中で身に付け
させたい。また親も子ども
が留守の間の家庭教育を見
直す機会とする。」と保護
者説明会の資料に記されて
います。

三泊四日の初日は、家族
から一人だけ離れ、他人と
慣れない所での共同生活で
とても心細いと思います。
消灯は二十一時、起床は六
時。食事も自分で盛り、嫌
いなものも自分で食べられ
る分だけ考えて盛り付けま
す。荷物の整理も自分でし
ます。布団も自分で敷き、
畳みます。二日目には翌日
の夕食のメニューの買い物
をし、三日目の夕食は皆で
分担してカレーを作ります。

去る七月十五日（月）海
の日に、下伊那郡体育協会主
催の第三十回弓道大会が、
柿外土 宇佐美和夫
この大会の開会式で当豊
丘支部の井原寿恵さんが、
十四日に行われた県遠的選
手権で入賞し、全日本選手権
長野県代表となったことが
報告されました。井原選手
のご健闘をお祈りします。
最後に豊丘支部は現在会
員が十一名と少なく、村のご
配慮により恵まれた道場が
あり、毎週木曜日の夜は集

私の宴会芸は、島倉千代
子の「人生いろいろ」の歌唱
である。もちろん裏声を駆
使し、オーバーなまでにビ
ブラートを利かし、成り切っ
て歌う。普段ガラガラ声の男
が女性の、しかもお千代さん
のまね事をするのだから、
それなりに受ける。と
本人は思っている。
島倉千代子の歌唱
のきっかけは何だっ
たのだろうか。思う
に、社会人一年生の
歓迎会の宴席でのこ
とである。新人なの
で、うむを言わず
何か芸を求められ、
「芸・芸・芸」で頭が
一杯の中、何かに突
き動かされるように、
島倉千代子の「東京だヨ
おっ
母さん」を歌った。それは、
歌詞を見ないで歌えたこと
や好きだったことも影響し
ているかもしれない。四十
五年程前なのでカラオケは
なく、すべてアカペラ独唱
と手拍子の時代である。当

歌は世につれ～一話

宴会芸延命の「人生いろいろ」

上佐原 小池 光好

昭和六十二年「人生いろい
ろ」が大ヒットした。さっ
そく切り替えた。「人生いろ
いろ」は決して明るい歌で
はないが、前奏のときから
手拍子が入り、「いろいろ」



「原稿募集」
歌にまつわる思い出やエ
ピソードなどを、写真を添
えてお寄せください。字数
は問いません。投稿お待ち
しております。

通学合宿始まる



ご飯は名人の指導の
下、飯盒で炊きます。
TV・ゲームもあり
ません。目的にあつ
た遠慮と我慢をして
います。それが以上に、
通学合宿を楽しんで
家庭に戻ります。
子ども達が頑張れ
るのは安心して戻れ
る家庭があり、それを取り
巻く地域のコミュニティ
があり、豊丘村が安心して
生活ができることを提供
できているからだと感じま
す。今後の通学合宿のさら
なる発展を期待いたします。

豊丘村弓道場で開催されま
した。
この大会は、現在六支部
を持ち回りで実施されてお
り、六年ぶりに豊丘村が当
番となり開催されたもので、
参加選手は七町村と飯田市の
四地区から四十六名で行
われ、午前に個人、午後に
団体の競技が行われ、結果
は左記の通りとなりました。
個人（敬称略）
一位 元島秀紀（喬木）
二位 井坪大樹（泰阜）
三位 松枝敏広（喬木）
団体（敬称略）
一位 原田・林・矢口
（やまどり泰阜）
二位 下平・久保田・藤澤
（上郷・下條）
三位 池田・田中・牧内
（喬木）



刈残す白宛に菫の花
紫陽花に襦袢色濃かり石畳
八重咲きの十葉ことに沁み入りぬ
螢いるよ散歩帰りの夫の声
若竹の強き姿に我学ぶ
老鶯に耳をあずけて峠茶屋
友逝くや軍歌を口に麦刈し友
呼びながら松より庭へ巣立鳥
朱夏の谷狸化かせし妣の郷
星に透け日日純白の月見草
峽の空こも大和ぞ花菖蒲
峽の里雨にかがよふ未草
ちちははの居らぬ故郷青田風
よろけやみあの世の螢ふれてみる

俳句 短歌

磯部セツ子
田中 静
片桐 洋子
森田 恵子
三島 保子
三島 里子
木下 眞水
松岡 照子
宮下 公
宮下 純子
林 恵美子
丸山 時子
矢島千勢子
北原 昭子

「カメラリはなせじぐぐか」と電話相談雲の隙間を縫い走るらしと
福澤貴美恵
掛川の亡母と縁の子息より新茶が届き仏間に香る
筒井 恵子
てっぺんの公園の眺望村一番対岸の風越山は権現さまとう
大倉 知江
暮れ泥むてっぺん公園ゆ見下ろせば遠き街の灯漁火のごと
毛涯百合子
出席者少くなれど同年会八十路半ばが湯宿に集う
壬生 千春
一日で街からごみ箱消え去りぬ大阪サミット巨大な生きさの
大原真由美
梅雨空の束の間の晴れ庭に出で草取り半ば片付け半ば
松尾ヒサコ
あの年の悪夢再び訪れぬ小さき果実は雹に打たれる
北沢 秀子
深夜使ラジオ聞きつつ亡母の居間ブルーベリーの荷造りをなす
松下 泰見
鑫斯になりたる思ひ朝ひる晩キウリ顔出す今年成り年
福澤 亀人

〈豊丘村川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「余」 久保ひろし 選
年寄り余計な事は言わぬ勝ち 福沢 勝美
精一杯生きて余力を弾ませる 安田 喜子
ときめいた日々が余生を支えてる 西元 峯子
軸吟：剰余金へそくりなどの甘い蜜
▼課題「捨」 互 選
ストレスを吐き出すような捨てゼリフ 林 もも子
使い捨て世界に沈んでる 久保ひろし
断捨離でアルバム見る手つい止まり 山本 義彦
捨てられぬ思い出胸の奥底に 原 美風
▼自由吟 福沢勝美 選
地下足袋が日増しに重く玉の汗 市沢 照子
議長国米中ロシアに軽視され 桃沢 健介
軸吟：二千万無くて娼捨にぎやかに